

記入日：2019/11/19

R1年度国土交通省「BIM/CIMリクワイヤメント」への対応

| | |
|--------------|------------------|
| 会社名 | 株式会社地層科学研究所 |
| ソフトウェア名/Ver. | Geo-Graphia |
| 適用分野 | 地質・土質 |
| 適用フェーズ | 調査・予備設計、詳細設計、施工等 |

| 国交省 | | | ソフトウェアの対応状況 |
|-----|---------------------------|--|--|
| No. | BIM/CIMリクワイヤメント項目 | R1年度の施策等 | |
| 1 | CIMモデルの作成・更新 | <CIM 導入ガイドライン> | <ul style="list-style-type: none"> ●複数の表現方法で3次元地質・土質モデルを作成可能 ●ボーリング、図面、サーフェス、ソリッドモデル、ボクセルモデルの作成が可能 |
| 2 | 属性情報の付与 | <CIM 導入ガイドライン> | <ul style="list-style-type: none"> ●CIMモデルにおける属性は、別途作成されたCSVデータをプログラム側から参照することにより対応可能 ●IFCによる出力は、土木モデルビュー定義には現在未対応がた、CADモデルは出力することができる |
| 3 | CIMモデルの照査 | <BIM/CIM 設計照査シートの運用ガイドライン> | ●現在未対応 |
| 4 | CIMモデルの納品 | <CIM 事業における成果品作成の手引き> | ●現在未対応 |
| 1 | 段階モデル確認書を活用したCIMモデルの品質確保 | <段階モデル確認書>に基づきCIMモデルを共有し、その効果や課題について抽出する | ●現在未対応 |
| 2 | 情報共有システムを活用した関係者間における情報連携 | 情報共有システムの3次元データ表示機能等を活用し、関係者間の情報連携を実施する | ●関係者間の共有には、弊社ソフトのフリービューワー等を利用して対応 |
| 3 | 後工程における活用を前提とする属性情報の付与 | CIMガイドラインに固執せず、事業ごとの特性から追加すべき属性情報を検討する | ●CIMモデルにおける属性でなくても、別途作成されたCSVデータをプログラム側から参照することにより対応可能 |

| 国交省 | | | | |
|-----|-------------------|----------------------------|---|---|
| No. | BIM/CIMリクワイヤメント項目 | R1年度の施策等 | ソフトウェアの対応状況 | |
| 4 | 選択項目 | 工期設定支援システム等と連携した設計工期の検討 | 「設計施工間の情報連携のための4次元モデルの考え方」を参考に施工ステップに沿ったCIMモデルを構築する | ● 施工段階においてCIMモデル（地質・土質モデル）を作成できる |
| 5 | | CIMモデルを活用した工事費の算出 | CIMモデルから数量を算出するとともに、算出された数量に基づく概算事業費の算出を行う | ● 土量計算の手法としては、4点法にのみ対応、その他の手法は、対応未定 ● 概算事業費の算出等はない |
| 6 | | 契約図書としての機能を具備するCIMモデルの構築 | 契約図書としての要件を備えたCIMモデルを作成し、3次元モデルと2次元図面との整合性について確認する | ● CIMモデルと2次元図面を3次元空間上で同時に確認する把握することができる |
| 7 | | CIMモデルを活用した効率的な照査 | 3次元モデルと属性情報に基づき、効率的な照査を実施する | ● 内部にCAD機能を有しているため、その基本機能で3次元モデルの照査が可能 |
| 8 | | 施工段階におけるCIMモデルの効率的な活用方策の検討 | CIMモデルを用いた仮設計画、施工計画を行い、出来型管理を検討、実施する | ● 施工段階においてCIMモデル（地質・土質モデル）を作成できる ● 出来形管理に関しては、計測データを面的に捉えることにより、確認することができる |